

# 家庭学習応援だより

## 第10号

5日の閉校記念行事が終わると、主な行事は残すところ卒業式、修了式になります。このお便りを昨年の5月に発行して、特別号を含め、これまで13号発行してきました。お子様の学習に向かう姿に変化は見られましたか。親御さんご自身の子供への関わり方に、変化はありましたか。また、どのような変化があったでしょうか。

さて先日、「令和3年度茨城県教育広報・NIEコンクール」に、本だより(5月号～1月号)を応募してみました。3,338点の応募があり、結果、優秀賞をいただくことになりました。実際、1号分を作るのにネタ集めや参考資料の準備、作文・推敲など、かなりの時間と労力を使います。しかし、皆様の関心の高さに励まされ、発行を続けることができました。廃刊までわずかですが、いつもと変わらず、ブレずに発行したいと思います。

### 子供の勉強嫌いは誰のせい？



そもそも、勉強ってなぜいやなものになってしまうのでしょうか。結論から言えば、子供が勉強嫌いになってしまうのは、たいてい周りの大人のせいなのですが…、「**そもそも論**」に注目して子供の勉強嫌いを考えていきます。

お子様が小さかった頃を思い出してください。一つの言葉を発しただけで家族は大喜び、字や絵を描こうものなら「額に入れて飾ろう。」などと言われていたのに、小学生になったとたん、少し間違えただけで怒られる。習い事も同じで、初めは楽しくやっていたのに、「練習をちゃんとやりなさい。」「月謝だってタダじゃないんだから。」などとガミガミ言われては、子供にとってはたまったものではありません。子供は親の態度が変わったことに戸惑うでしょうし、なにより楽しいはずがありません。**そもそも、子供は「勉強はつまらない」と思っています。**本来、子供は好奇心のかたまりです。にもかかわらず、子供が勉強嫌いになってしまうのは、なぜなのでしょう。

子供が自ら勉強してほしいとお思いなら、今までとは違ったアプローチが必要だと思えます。変わるべきは、私たち大人です。我々大人はこれまでの生活経験の積み重ねがあり、なかなかマインドセットを変えられません。すると、どうなるでしょう。親の自分は変えようとせず、子供を変えようとします。しかも、そのやり方に無理があるので、親の思惑は外れます。自分の思い描く「理想の子供の姿」と目の前にいる「現実の子供の姿」のギャップに耐えられなくなり、爆発する。これがガミガミの要因ではないでしょうか。

また、学生時代のあなた自身が勉強嫌いで、「勉強＝楽しい」と思っていたり自分以上に勉強したりしている友人や級友のことを、「そんなに勉強して何が楽しいの?」、「ガリ勉」と嘲笑の目で見ていませんでしたか。大人になった今となっては、「勉強＝いやなもの(できれば避けたいもの、苦行)」のイメージが刷り込まれているため、子供への言葉かけも下記にある表現(勉強＝いやなもの)となるのではないのでしょうか。「子供を想えばこそ…」と言えば聞こえはいいですが、自分が嫌で避けてきたことを子供には強いるのは、どうでしょう。

勉強なんかさっさとやってしまいなさい

早く終われば、たくさん遊べるでしょ

みんなやってんだから、あなたも勉強やりなさい



- ・ 早く遊びを終わらせれば、たくさん勉強できるでしょう
- ・ みんな遊んでいるんだから、あなたも遊ばないとだめでしょ

などとは、おそらく言わないはずですが、これは、親御さんの勉強へのイメージが、表れた典型的な例です。この負の連鎖はどこかで変えなければいけません。日々の言葉かけを振り返り、「勉強＝楽しい」になる言葉かけに変えてみてください。

## なぜ、勉強しなければいけないの？



子供にこう言われて言葉に詰まったことはありませんか？これは、勉強に対するかなり根源的な問いと言えます。また、親御さん自身も、子供のころにそう思ったことはないでしょうか。私自身はそう思っていましたよ。なぜ勉強したほうがいいのか、わかっていないのですから、勉強に身が入るはずがありませんよね。

勉強の理由は人それぞれなのは言うまでもありません。研究者を目指す人の勉強の理由と、スポーツ選手になろうとしている勉強の理由は異なりますね。我々教師は、できれば子供たちがその理由を自分で見つけてほしいと考えています。また保護者の皆様にはそれを見つけるための手助けをしてほしいと思います。「なぜ、勉強しなければいけないの？」は子供が勉強をしたくないときに、反抗のように使う言葉です。そこをぐっとこらえて、親御さんなりの答えでいいと思いますから、「お母さんは(お父さんは)、こう思う。」と返してみてください。もちろん模範解答はありません。子供は親の考えを聞いたうえで、自分なりの勉強の理由を考えていくものです。「そんなこと言ってる暇があったら、漢字の一つでも覚えなさい。」ではなく、「せっかくだから、いったん勉強やめていから、少し話しようよ。」と言ってあげてほしいです。家庭でこの言葉が出たらチャンスだと捉えてください。

## 家庭学習を支える保護者の3機能



お子様の家庭学習を効果的にするために家庭と学校がそれぞれの役割を自覚して、子供に働きかけることが効果的と言えます。逆に家庭と学校が同じような役割をしようとすると、それぞれの長所を打ち消し合ったり、互いに取組を否定したりすることにもなりかねません。下に3つの機能を挙げておきますので、ご覧ください。

### ペースメーカー

- 学習を促す、生活環境を整える
- 規則正しい学習や生活の習慣形成

### サポーター

- アドバイスや話し相手
- 子供が学習から逃げだしたくなったり、自信を無くしたりした時に、心を支える

### ファシリテーター

- 良好な学習環境の構成
- 教材の準備や学習スペースの確保、静寂な時間の保障など条件整備



おわりに

北京オリンピックで競技後に羽生結弦選手の「報われない努力ってあるんだな…」という発言が話題になりましたね。また、羽生選手は以前、「努力はうそをつく。でも無駄にはならない。」とも話しています。今回の「おわりに」は、この「努力」について触れてみたいと思います。下記は2019年度の東京大学入学式での上野千鶴子さんが新入生たちに向けた祝辞です。

〈(前略)あなたたちはがんばれば報われる、と思ってここまで来たはずです。ですが、(中略)がんばったら報われるとあなたがたが思えることそのものが、あなたがたの努力の成果ではなく、環境のおかげだったことを忘れないようにしてください。あなたたちが今日「がんばったら報われる」と思えるのは、これまであなたたちの周囲の環境が、あなたたちを励まし、背を押し、手を持ってひきあげ、やりとげたことを評価してほめてくれたからこそです。世の中には、がんばっても報われないひと、がんばろうにもがんばれないひと、がんばりすぎて心と体をこわしたひと…たちがいます。(後略)〉

子供たちの日ごろの「努力」を支えているのは、間違いなく保護者の皆様です。子供たちが大人になって自立していくまでは、「努力は報われる」と信じさせてあげたいものです。